

# まち歩きマップ5

## 今も残る歴史浪漫 多田銀銅山めぐり

ルートガイド

⑤ 白金2丁目バス停



570m  
9分

① らせん階段



580m  
9分

② 悠久の館



500m  
8分



③ 金山彦神社



230m  
4分

④ 青木間歩



1050m  
15分

⑤ 村上中池



2150m  
31分

⑥ ふれあい公園



コース周遊  
5.1km  
2時間20分



猪名川町マスコットキャラクター  
いなぼう

# 多田銀銅山めぐり コースの見どころ



『多田銀銅山』<sup>いながわ名所八景</sup>の歴史は古く、奈良時代の東大寺大仏造立の際には、銅を献上したという言い伝えがあります。豊臣秀吉の時代には「瓢箪間歩」「台所間歩」を中心に大坂城の財政を支えたといわれています。江戸時代の最盛期には、幕府直轄地として、代官所が置かれ、銀銅採掘の一大拠点となり、「銀山三千軒」といわれるほどの賑わいをみせました。猪名川町の銀山地区を中心に半径10数kmの広範囲に、2000ヶ所以上の間歩（まぶ：鉱山の坑道）が存在しているといわれています。

## ①大坂口番所跡（らせん階段付近）

江戸時代、旧街道が通っていて大坂方面から銀山町への入口にあたりました。大坂口番所として全盛時代には、人や荷物の取り締まり、通行税の徴収などをして、銀山と大坂方面の重要な交通の要所となっていました。「銀山町間歩絵図」「柵内銀山町御用地略絵図」（悠久の館で展示）にもこの番所が描かれています。

## ②多田銀銅山悠久の館 <sup>ゆうきゅう</sup> Tel072-766-4800 休館日：月曜日 ※祝日の場合は翌日休館（入場無料）

多田銀銅山の歴史を紹介する施設です。館内には多田銀銅山に関わる鉱石、鉱山道具、絵図、古文書などの資料を展示しており、休憩の場所としてもお使いいただけます。

悠久の館の前の広場にはレンガ構造物が並んでいます。これは明治30年（1897）から10年程使われていた、島根の鉱山家の堀藤十郎が経営した製錬所の跡です。平成23年の発掘調査により当時のレンガ敷遺構が出土しました。大切な近代産業遺跡として埋め戻して保存されており、平成25年には悠久広場として整備され、公開されています。

川の向こうには江戸時代の代官所跡が残されています。平成12年からの発掘調査で建物跡や石垣、畑、階段などが発見されました。



多田銀銅山 悠久の館



悠久の館 館内写真



多田銀銅山 悠久広場



代官所跡遺跡(発掘調査当時)

## ③金山彦神社 <sup>かなやまひこ</sup> 見学不可日（年末年始）

大同2年（807）創建との社伝を持つ金山彦神社は、この地域の中心として銀山の栄枯盛衰を見守ってきました。山の神<sup>おやまつみ</sup>大山祇命と金山彦命、金山比売命<sup>かなやまひめ</sup>が祭神です。金山彦命と金山比売命は伊佐那岐・伊佐奈美<sup>いさなみ</sup>両神の子どもで、鉱山の守り神、のち金属関係すべての守護神となり、同じ祭神をまつる神社が日本各地にあります。

本殿は江戸時代最盛期の寛文4年（1664）に建てられたものです。



## ④青木間歩 <sup>まぶ</sup>

唯一、坑道内を見学できる間歩で、鉱脈をくっきりと見るすることができます。手掘りの露天掘りと、削岩機などの機械を使って採掘された坑道の姿が今も残されています。

多田銀銅山の間歩は湧き水が多く、しばしば水没することもあり、平賀源内が安永元年（1772）にその排水技術指導をしたこともありました。

多くの間歩が残り、古くからの歴史浪漫を感じるこの銀山にはこのような歌も詠われています。「事なくば 世々に伝えよ 白金の 山に黄金の 花の咲くとも」

## ⑤村上新田

この谷筋の水田は正保元年（1644）から元禄9年（1696）に開発されたと考えられます。水田と里山の織り成す風景は、四季を通じて、のどかな雰囲気を楽しむことができます。



## ⑥ふれあい公園（総合公園）

ここの地区名「白金」は近くに多田銀銅山があり、銀は「しろがね」と呼ばれることから名付けられました。ふれあい公園は「文化ゾーン」「公園ゾーン」「自然ゾーン」に分けられ、折々の美しい自然の中でやすらぎを感じていただき、ふれあいを深めていただく場所として平成9年に整備されました。芝生広場、ピクニック広場、文化体育館、図書館などがあります。